idea

ニュースレター「イデア」

2019. 7

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　樹木医　佐藤好さん
3｜団体紹介｜　松川パークゴルフ同好会
5｜地域紹介｜　厳美第四民区自治会（一関）
7｜企業紹介｜　農業商社　加賀長商店（一関）
8｜博識社のフクロウ博士｜　地域づくりの視点
9｜センターの自由研究｜　「巨樹」探訪　vol.3

今月の表紙

この辺りでは「もだの木」などと呼ばれるこの木。
正式な樹種名がわかる人はどれくらいいるでしょうか？
3 回にわたってお送りしてきた「巨樹探訪」、今月が最終回です。

二言三言

132 / 116,260

佐藤好（よしみ）

岩手県職員として勤務していた頃から松くい虫対策や木の保護活動に携わり、その経験を活かして樹木医の資格を取得。現在は一関市赤荻の「佐藤樹木医事務所」を拠点に、県南や沿岸地域を中心に活動しています。

樹木医（登録番号 352 号）/松保護士（登録番号 21 号）
・岩手県立緑化センター顧問
・奥州市文化財保護審議会委員（植物）等

第61回　樹木医　佐藤好さん × いちのせき市民活動センター センター長　小野寺浩樹

木の健康を守り、成長を助ける
～あらゆる木の性質を知る専門家～

「センターの自由研究」の巨樹特集に合わせて、木のお医者さんである樹木医の佐藤好さんに、普段の活動や地域の樹木に関するお話を伺いました。

小野寺　樹木医さんとは、そもそもどんなことをされている方なのか教えてください。

佐藤　木の病気を治したり、弱った木を元気にしたり、木を虫から守ったりですね。病害虫防除にも繋がってくると思います。その場所の土壌が悪かったり天候の影響を受けたりと、木も人間と同じで成長する段階で弊害が出てきますので。樹木医は病気になった原因を究明し、治療します。

小野寺　木の病気に対して治療方法があるんですか？

佐藤　たくさんありますよ。木には、葉・枝・幹・根があり、その部分に何らかの弊害や障害が出てくると、花が咲かなくなったり、葉が枯れてきたり、葉の色が変わったりなど、表面に表れてきます。

小野寺　見るだけで病気がわかるものなんですか？

佐藤　わかります。木には色々な病気がありますが、中でも菌の病気は厄介ですね。菌の性質により様々ですが、例えば「ナラタケ菌」とは、ナラタケというキノコの菌で、木を食べ、枯らし、腐食させてしまいます。菌が付くと、根本からキノコの強い香りがするのが特徴ですね。

小野寺　根本が白くなっている木を見かけることがありますが、あれも菌の影響なのでしょうね。地域ではよく「松くい虫」の被害を聞きますが、なぜここまで広まってしまったのでしょう？

佐藤　松くい虫は、明治時代に外国から入ってきた虫なんです。明治から昭和初期までは、炭焼き職人が山に行き炭を焼きながら山を綺麗にしていましたが、時代の変化と共に炭の需要が減り、山へ行く人がいなくなり、山は荒れていきました。そのような状況の中、輸入した外材の中にたまたま松くい

虫が入っていて、南から北へ生息域を広げながら増えていきました。

松くい虫とは松を枯らす原因となる線虫を運ぶ「マダラカミキリ」という昆虫を指します。マダラカミキリ1体に500～1000もの線虫が付着していて、かじった葉の部分から線虫が木の中に入り、2週間ほどで羽化して増える。線虫は樹液を吸い乾燥させ、早ければ1か月で木を枯らせます。

小野寺　なるほど。対処方法としてはお薬での治療ですか？

佐藤　それが、線虫は木の奥に入り込んでしまうのでどうにもできないんですよ。木に入る前に薬で予防することはできますが、薬が切れるとダメです。

線虫は若い木だとヤニが多くて入りにくく卵も産み付けにくいので、ヤニが少なくなった古くて太い木によく入るんです。地域にも立派な松が沢山ありましたが、全部やられてしまいましたね。

小野寺　地域の木を守っていくために、やはり樹木医さんの存在は大きいですね。樹木医さんは今市内に何人いらっしゃいますか？

佐藤　市内では私だけですが、県内で数えると10人強おります。私は花巻より南から、沿岸の方まで活動していますよ。

小野寺　どうしたら樹木医になれるのでしょうか？

佐藤　（一財）日本緑化センターで行っている試験に合格すればなれます。昔は農林水産大臣の認定資格でしたが、今は民間資格で、試験は3次まであります。

小野寺　国家資格かと思っていましたが今は違うんですね。樹木医さんは樹種を限定することなく、全ての木を診るのでしょうか？

佐藤　全て網羅します。私は元々県の林業振興課で、松くい虫の対応や木の保護にも携わっていました。森林総合研究所に入って研修を受けたり、保護研究室に入って虫について学んだりしていたので、ある程度はわかっていたのかな。

小野寺　樹木医さんになるには経験も知識も必要で、なかなかハードルが高いんですね。

佐藤　色々な木の特徴を覚えなければなりませんからね。針葉樹、広葉樹…種類は色々ありますが、常緑樹は比較的丈夫なんです。落葉樹は葉が落ちる「休眠期間」に何かあると弱ってしまうこともあります。木の近くに側溝を作ったり、砂利を敷いたり等、意外と人的要因が多いんですよ。木の根は枝と同じぐらいの範囲に広がるので、根本にも同じくらいの面積を確保しないと成長していきません。木の間隔が狭く枝が交錯すると、どちらか片方または両方の枝が上から枯れてくることもあります。

小野寺　そうですね。木の中の競争ですよね。

佐藤　そして枯れてきた部分を切ったり、邪魔な枝を切り落としたりすると、そこからどんどん腐れが入ってきます。

小野寺　地域の街路樹も、枝が途中で切られているのを見かけたりしますよね。

佐藤　そうですね。木には高木・中木・低木がありますが、街路樹に高木は向かないんですよね。たちまち大きくなってしまいますから。街路樹に植える木は、ヤマボウシやハナミズキなど、高さ2～3mくらいの中木・小木がお勧めです。これらはそんなに高く伸びないので、お手入れしやすく、扱いやすいです。

小野寺　おもしろいですね。木に対する見方が変わります。

佐藤　木は奥が深いですよ。土の硬軟・乾湿、気温の寒暖など、その環境に強い木・弱い木があります。土壌により植生が異なるので、土壌や植生を見ればその場所に適した木がわかります。

木によって性質は違いますから。そういうことがわかるとおもしろいですよ。

佐藤樹木医事務所
住所　一関市赤荻字下谷地22-5
電話　0191-33-1855

団体紹介

元気モリモリ「ナイスショット！」

松川パークゴルフ同好会

松川パークゴルフ同好会

東山町松川（及び隣接する川崎町の一部）の方達を中心に、平成16年頃にパークゴルフの同好会活動を開始し、現在に至っています。

〒029-3406　一関市東山町松川台148-24
TEL　0191-48-2439（事務局：鈴木）

左の写真：今年5月の月例会での集合写真。現在は60代～80代を中心に、55人（男性36人、女性19人）の会員がパークゴルフを楽しんでいます。

似て非なるスポーツ

パークゴルフ（以下「PG」）、グラウンド・ゴルフ（以下「GG」）、ゲートボール（以下「GB」）。皆さんはこの3つのスポーツの違いを説明できますか？今回は松川パークゴルフ同好会（以下「同会」）会長の阿部平さんに、各種目の違いと同会の活動、阿部さんの想いなどについてお話を伺いました。

まず各種目の違いですが、PG、GGがゴルフ同様総打数の少なさを競う個人戦（団体戦は個人の結果を合計する形）なのに対し、GBは団体戦で、30分の試合時間終了時に総得点が多いチームの勝ちです。GBには「味方に有利に、敵には不利に」という戦略性があり団体戦ならではの醍醐味ともいえますが、逆に好き嫌いが分かれる要因でもあるとか。

PGとGGは似ている部分が多いですが、PGがゴルフと同様最終的に目指すのはカップインであるのに対し、GGでは直径36cmのホールポストの輪の中に静止（トマリ）することが目標です。ほかにもPGはティー（ボールを乗せる台で1打目にだけ使用）を使う、GGよりホールの距離が長い（PGは1ホール100m以内、18ホールの合計で1km以内。GGは15～50mの指定された長さ）など、全体としては似て非なるスポーツといえます。

松川を一望できる自慢のホームパーク

同会が月例会などで使用しているホームパークともいえるのが館山公園内パークゴルフ場。松川の町並みや砂鉄川の眺望も美しいこのパークには、オリンピック金メダリストの高橋尚子さんが植樹した桜の木があります。

元々9ホールのコースでしたが、阿部さんが副会長だった時代に15人ほどの有志でその桜の木の周辺に追加で9ホールのコースを作りました。元からあった場所は『本丸コース』、追加した方

gallery -

会心の一撃

パークゴルフの第1打はティーグラウンドから。会心の一撃を想像させる見事なフォロースルー。ホールインワン？それとも・・・

眺望も美しいパーク

砂鉄川の眺望も美しい館山公園パークゴルフ場。同会が月例会を行う、自然溢れる自慢のホームパークです。

は『二の丸コース』と呼ばれるように。自然に溢れ、自分達が手をかけ作り上げたこのパークを、同会の「アピールポイントのひとつかな」と語る阿部さんは、心なしか少し誇らしげに見えました。

3つの目的をバランス良く

同会では冬季を除き毎月最終日曜日に月例会を行っているほか、4月に「鈴清杯」、7月に「松川郵便局長杯」、11月に「会長杯」など地元企業などの支援を受けた大会（対象は同会メンバー）も開催し腕を競い合っています。「各大会は会員のモチベーションを上げる機会になっており、協力してくれる企業さんには大変感謝しています」と、協力者への感謝を語る阿部さん。

会員についても「勝ち負けだけを意識しないでプレーすることが同会の自慢」と語り、「会の目的は、技術向上・会員相互の親睦・健康増進の3つですが、会員の技術レベルや参加の動機は様々。個々の会員が自分の目的に沿って活動している結果が月例会の高い参加率に表れていると思います」と続けます。

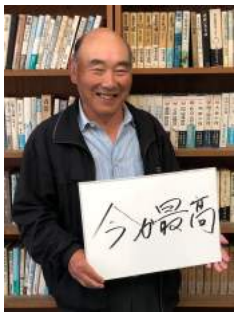
「150人規模の団体に比べ、50人強の同会は活動頻度、内容、技術レベルなどまだまだ及ばないと思います。それでも同会から、より上位の大会で活躍できる人材を一人でも多く輩出したい思いはあるし、その為にはいつでも好きな時に来てプレーできるパークにすることが理想。会員の底辺拡大や、他地域のプレーヤーを迎えることで技術レベルの向上を図る意味では、将来的に会の門戸を広げるという選択肢もあるかもしれません」としながら、「実際には何をやるにも簡単な話ではなく、基本的にお金のかかることはできないし、環境整備もほぼ自前。良い環境でプレーするには草刈りも重要ですが、草刈り等プレー以外の活動にもより多くの人に出て来てもらえたらと思います」と課題にも言及します。

また、「親睦や健康増進がメインの方達もいるので、競技志向とのバランスも考えていかなくてはなりません」とし、月例会の景品も、上位選手以外に誰にでもチャンスのある幸運賞を用意。大会によっては過去の成績に応じてハンデを設け、上手な人だけが勝つとは限らないという工夫もしています。

「そんなに素晴らしい活動をしているわけではありません。あまり立派に持ち上げないでね」と謙遜する阿部さんですが、少なくとも持ち前の明るさとバイタリティで、この地域における親睦や健康増進に一役買っていることは間違いありません。

あなたにとってパークゴルフとは？

会長



阿部平（あべたいら）さん

50 代での椎間板ヘルニアの手術を乗り越え、「元気にパークゴルフを楽しめている今が最高」と元気モリモリ！

会長とは同級生

永澤末子（ながさわすえこ）さん

パークゴルフ歴２年の永澤さん。「地域の皆さんと楽しく交流しながら健康づくりを」というのが始めたきっかけだそうです。

- Photo

緊張の一瞬

プレーの後はスコアの確認作業。慎重に確認し順位を決めます。周囲で見守るギャラリーもドキドキの瞬間。

表彰式

月例会では男女別に1～5位、ブービー賞、幸運賞などの授与が行われ、拍手でお互いの健闘を称え合います。

見えない絆で結ばれた自治会の結束力

一関　厳美第四民区自治会

厳美第四民区自治会

79 戸 293 人が暮らす厳美四区には、新奥の細道、世界かんがい施設遺産に登録されている照井堰用水など、歴史を感じられるスポットが多くあります。近年は、養護老人ホームあけぼの苑が開設し、古舘ニュータウン(通称)に新しい人が移り住み、幅広い年代の方々が地域に暮らしています。

左の写真：今年もキレイな花が咲くよう、早朝から「花壇整備」に励む住民の皆さん。

常に〝感謝〟を忘れない

「この地域は、役員や住民の人達の人柄がとても良いところです」と話すのは、厳美第四民区自治会（以下「厳美四区」）会長の小野寺光男さんです。前会長が任期中に急逝され、後任として就任したのが現会長の小野寺さんでした。「会長になると、10以上の役職が自動的に付いてきて最初はとても大変でした。しかし、周りの人達がいつも私を助けてくれたので、なんとかここまで務めることができました」と周りへの感謝を話します。

厳美四区では、花壇整備、納涼祭、地区民運動会、収穫祭、新年会など1年を通して様々な事業を展開していますが、中でも「納涼祭と収穫祭は地域の自慢です」と誇らしげに話します。そんな厳美四区の自慢や活動、今後について小野寺さんと生活環境部長の阿部敬三さん、会計担当の阿部幸也さんにお話を伺いました。

住民との繋がりは〝祭り〟から

納涼祭は、平均年齢40歳の若者メンバーで構成された「耕友会」が中心となり運営に携わっています。毎年、若者達の「勢い」と「力」で盛り上がる同自治会の祭りは、近隣住民はもちろんのこと他民区からも人が集まり、賑わいを見せます。わたあめやかき氷、焼き鳥などの食べ物が出店されるほか、老若男女が楽しめる企画としてビンゴ大会も開催。このビンゴ大会には、厳美照井中山間組合の協力のもと毎回ステキな景品が提供されますが、過去にはテレビが景品として出されていたこともあるというから驚きです。そんな納涼祭の思い出を楽しく話す小野寺さんは、「15年以上も続けられてきたのは、若い人達や団体等の協力があったからこそ。この取り組みを絶やさないよう、地域のことを考えていく必要があります」と今後の運営について語りました。

gallery -

夏は納涼祭

会場となる長慶寺の和尚さんにはいつも感謝。今年も多くの人に楽しんでもらえるよう耕友会の作戦会議が始まります。祭りへの要望はお早めに！

秋は収穫祭

ズラーッと並ぶ野菜達。安値で手に入る野菜は、主婦（主夫）の味方です。近くをお通りの際はどうぞお立ち寄りください。

11月に、国道沿いの「産直てるい」で開催している収穫祭では、地域住民で管理している共同の畑で栽培した野菜や、個人で育てた野菜や花などを持ち寄り安値で販売。毎年、国道342号線の真湯 - 須川高原温泉間が冬季通行止めになる前日に行うため、住民だけではなく、須川へ向かう観光客なども収穫祭に訪れます。住民だけでなく、地域外の人も楽しめる収穫祭は、地域の「交流の場」の1つになっています。

支えてくれる役員がいるから〝頑張れる〟

厳美四区では、ゴミの分別がしっかり行われず、清掃車にゴミが回収されないことが長い間続いていました。「これではダメだ」と役員の中で話し合いを重ね、昨年からゴミ捨てマナーの改善のために始めた取り組みがあります。

それは、誰が捨てたのか一目で分かるよう各戸にランダムで番号を割り振り、ゴミ袋にその番号を書いてもらいゴミを出すというシステム。

番号を割り振る際、誰がどの番号かが分からないよう各戸には封書で番号を知らせ、番号の管理は役員だけで行っています。また、番号システムの他にもゴミステーションを可燃・資源・不燃ゴミの3つの扉で区切り、捨てる時に分別して捨てられるようにしています。しかし、中にはまだマナーを守れていない方も…。

そこで、小野寺さんと環境部長の阿部さんが月2回、4か所に設置されているゴミステーションを巡回。清掃車が回収しなかったゴミを自宅へ持ち帰り、分別を行っています。

「このシステムを導入してから、以前よりもマナーの悪い捨て方は減りましたが、まだ分別がしっかり行われていないのが現状です。今後も声掛けはしていきたい」と小野寺さんは話します。

ほかにも、高齢者の独居家庭への訪問や冬には雪かきなどの奉仕作業も行い、日々地域を巡回している会長について、「小野寺さんは会長の仕事をしながら地域を見守っています。だからこそ役員が会長のことを少しでもサポートできる体制を厳美四区では作っている。厳美四区の自慢には『結束力』もあるね」と会計担当の阿部さんは話します。

「どこの地域にも課題や悩みが多くあり、それは尽きることがない問題です。しかし、住民にとって少しでも住みやすい地域になるよう、皆さんと協力しながらできる範囲で努めていきたいです」と小野寺さんは抱負を語ってくださいました。

Q.集落の自慢はなんですか？

会長

小野寺光男（おのでらみつお）さん

会長歴：2期3年目
中学時代は新奥の細道が通学路だった小野寺さん。登下校中に山菜をとったり、山の果実を食べることが楽しみでした。

生活環境部長

阿部敬三（あべけいぞう）さん

部長歴：4期8年目
元自治会長で小野寺さんが困ったときはいつも助けてくれる自治会のスペシャリスト。

- Photo

集会所の隣の寿司屋さん「丸八寿司」

いつも新鮮な魚介を仕入れている丸八寿司は、厳美四区の穴場スポットです。美味しいお寿司と元気な板長と女将が身も心も癒してくれます。

ゴミステーション

3つの扉で区切られているゴミステーションからは、美化活動へ取り組む意識の高さが伺えます。

一関　農業商社　加賀長商店

加賀家は江戸時代から続く商人一族で、もともとは一関市地主町で古着屋（着物屋）を営んでいました。その後、唐桑町（気仙沼市）からお嫁さんを迎え入れ、浜から直接仕入れた魚を売る鮮魚店を経て、魚の粕が農作物の肥料に適していたことから、明治時代から大正時代に移り変わるころ、当時の店主（現店主の曾祖父）である加賀長吉さんが肥料の専門店として「加賀長商店」を起業しました。昭和47年からは、萩荘地区に移り住み、肥料の他、農薬、各種苗・種、農業備品などを販売しています。

「田畑を次世代にも残す」継承のあり方を共に考える

米作り、野菜づくりへの想いをあらためて知る

一関市萩荘地区にある加賀長商店は、肥料販売の専門店として107年の歴史があり、変化する地元の田園風景を見守り支えてきました。「北海道で農薬会社に勤務していた頃、畑作や水稲にも関わっていたので、ある程度農業に関する知識はあるものだと思っていました。しかし、実際農家さんと一緒に仕事をしてみると、農業に対する細かな作業の多さや『育てるための管理』の重要性など見えない部分の苦労がたくさんあるということを教わりました」と語るのは、4代目の加賀直樹さんです。農薬会社に勤務後、そのノウハウを活かそうと30年前にUターン。「自分が見ていた農業とは何だったのかと考えさせられた」と語る直樹さんは、後継者不足などの課題に直面している農家の切実な思いを聞くたびに「なんとか解決できる方向性を一緒に考えていきたい」という思いを募らせてきました。

その一歩として、直樹さんは平成18年に農産物検査員資格（米の年産、銘柄、品質などの検査を行い、米の格付けをする国家資格）を取得し、米の集荷も行えるようになりました。さらに今年から、「高齢になって田んぼの維持管理ができなくなったが、田畑を荒らしたくない」という地元農家さんの相談を受け、直樹さんが地元の水田管理（稲作自体）そのものを引き受けることになり、5月には初めての田植えを行いました。

農業の情報交換を通じた住民との交流

自らを「農業者1年生」と語る直樹さんですが、圃場の管理、肥料や農薬に関する知識は「先生」です。初代から育まれてきた農家さんとのお付き合いの中で、その時代に合わせた農業のあり方を常に研究し、指導も行っています。平成24年から開催している「菜園塾」は、「創業100年を過ぎ、地元に何か恩返しを」という三代目店主（直樹さんのお父さん）の熱い想いから始まり「農業に関する話を聞ける場、相談できる場」として萩荘地域外からも参加があるほど好評となり、年1回の収穫祭（11月）には、それぞれの農家さんが育てた野菜を持ち込み芋の子汁を作ってその年の収穫を祝い住民の交流の場ともなっています。

また、年2回（7月と2月）開催している稲作勉強会は、農産物検査員である直樹さんが、農家さんが持ち込んだ稲株や土壌を診断し生育状況分析を行うなど収穫に向けての指導や情報交換を行い、店舗周辺の試験圃場では、稲の病気について実際に見ながら消毒方法や追肥について指導しています。

最後に、「数年前からは地元の小学2年生に食育授業の一環で、トマトの栽培指導にもお伺いしています。こういった活動を通して、将来を担う子供たちが農業に関心を持てるような活動を広げていきたい」とご夫婦そろって笑顔で語っていただきました。

1　4代目 加賀直樹さん(左)妻の麻衣さん(右)
2　アイディアガールの麻衣さんはお米のパッケージイラストなどを発案
3　お米をさらにおいしく食べてもらえるように考えたアドベントカレンダー

DATA
〒021-0902
一関市萩荘字高梨東11-1
TEL：0191-24-3188 FAX：0191-24-3189
FB：https://www.facebook.com/kagacho.Iwate/

今月のテーマ

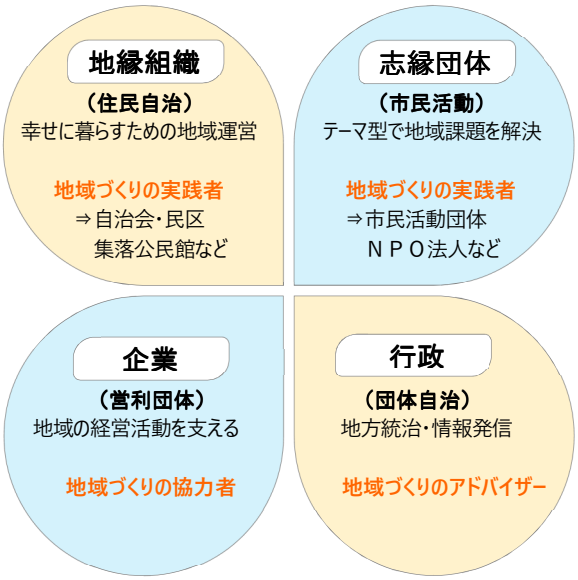
地域づくりの視点

地域を支える4つの主体を意識！

地域づくりを進めていく前に確認しておきたいことは“**主体**”です。「地域づくりは、誰がするの？」ということです。

地域づくり活動は、営利・非営利を問わず幅広い主体のもとで行われており、多種多様な主体が存在していますが、当センターでは、大きく分類すると地域を支える主体を図のような**４つ**に分けて考えています。しかし、各主体には弱みや課題もあるため、それぞれが単独で行うのではなく、協働によりそれぞれの役割を理解し、つながり合いながら進めていくことが必要です。

特に、今後、地縁組織と志縁団体は交流・連携を積極的に行うことが望ましいと考えます。地縁組織内でテーマ型の活動をしたいと思っても地縁組織の中にはノウハウが無いことがあります。そうした時には志縁団体と連携して事業を行い、ノウハウを吸収することで、コミュニティ内で自主自立した活動ができるようになります。



まちづくりや地域づくりのメインは「事業」と考えがちですが、**その事業の目的や、生み出す効果が明確になっていないと意味がありません。**

「やみくもに何かやればいい」というものではなく、**これからの地域づくりに大切なことは、「視点」を置き、地道に取り組むこと**です。

視点① プラスをプラスに、マイナスをプラスに

まちづくりや地域づくりの活動には、まちや地域にある文化や地域資源を活用した「今あるものをより良く」する活動と、まちや地域の課題解決などの「今ないものを良く」する活動の２種類があります。

どちらにしても、まずは地域におけるプラスの要素、マイナスの要素を洗い出しすることが大切です。

視点② 理想の将来像と過去の振り返り

地域づくり活動は、目標を立てることから始まります。**「どんな地域にしたいのか」**、活動によって**「どんな風に変えていきたいのか」を明確にしておく**必要があります。

目の前にある課題解決のための事業も必要ですが、「どんな地域にしたいのか？」という理想の将来像を描き、その将来像に近づけていくために取り組む事業もあります。

また、過去の振り返りも必要です。その**地域にどのような歴史背景があって現在に至っているのか**は、その“**地域らしさ**”を表します。地域らしさの「らしさ」は、歴史背景が地域固有のストーリーを物語ります。

いまは、チェーン展開されているお店が全国各地にあり、インターネットによる購買も簡単な時代です。私たち消費者にとってはとても便利なことなのですが、地域の特性を求めにくい状況です。どこのまちや地域でも同じものが手に入るということは、平均的というか金太郎飴のようなもので、いまの時代に地域特性を生み出すことはとても難しいでしょう。地域らしさは、**その土地の風土や生活文化から築き上げられているものであるとすれば、過去や歴史と向き合い、私たちが住んでいる地域には、どんな先人たちの想いがあったのかを紐解きながら地域づくりを進める視点が、ますます大事になってくるのではないでしょうか。**

ミッション35 「巨樹」探訪 vol.3

「市内で一番太い木」を探すというミッションに対し、木(樹)とは**「単純な太さ**で比較できるような存在ではない」という気づきを得たことから、**種類別に全国比較**をしたり、単純な太さ比べでは見えてこなかった**「実はすごい木（貴重な木）」**を探してきました(3回シリーズの最終回)。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。多少の誤差や調査漏れ、順位の変動等はお許しください。

ここまでのあらすじ

「市内で一番太い木」を特集しようと調査を開始するも、いざ調査結果を並べてみた時に、種類を無視したランキングの「ナンセンスさ」と、「木」を「木」というカテゴリーで一括りにしてはいけないということに気づいた私たち。

5月号でひとまず種類を無視した単純な市内の巨樹ランキングをご紹介（下記表）した上で、前号（6月号）では「種類を無視した単純な太さでは市内でのランクは低くても、種類別に見ると全国に誇れる太さ」という巨樹たちをご紹介し、それぞれの種類の持つ特性を加味して考えることがいかに大事かをお伝えしました。

今月は「太さ」より「珍しさ」

3回シリーズの最終回となる今回は、もはや「巨樹探訪」というミッションから逸脱し、「太くはないが貴重な木」をご紹介！

というのも、ここまでの調査で「単純な太さだけを追っていくと、樹齢を重ねても太くならない木を見落とす」ことや、「木の特性を考えると、太くなくても一関にあるという存在自体が珍しい木がある」ということなどが分かってきたからです。

また、調査の過程では、見に行った木が朽ちていたり、すでに切られていた、という切ない結果が少なからずあり、「木を管理する」ことの難しさを痛感。そこで、勝手ながら木を管理されている方を「樹守（きもり）」と命名し、尊敬の念も込めてご紹介させていただきます。

【市内の巨樹・目通り周ランキング】

※5月号・6月号掲載の表を組み替えたものですが、**今月ピックアップした木の中にランキング入りする巨樹（門崎のアズマヒガン、藤沢のモミ）があったため、9位以下が最新情報に更新**されています。

順位	名称／地域／推定樹齢	太さ	樹種別にみた全国順位予想
1	真湯のカツラ(厳美) 1000年以上	11m	100位以内
2	箒カヤ(猿沢) 700年以上	9.5m	10位以内
3	小日形のイチョウ(藤沢) 約500年	8.35m	200位以内
4	興田神社の杉(興田) 1000年以上	7.86m	杉でこのレベルは多数
5	神中のカツラ(小梨) 約350年	7.44m	250位以内
6	配志和神社の夫婦杉(山目) 1000年以上	7.18m	杉でこのレベルは多数
7	山吹城址のイチョウ(大原) 約450年	7m	300位以内
8	田茂木のイトヒバ(室根) 350年以上	6.88m	トップレベル
9	門崎のアズマヒガン(川崎) 約450年	6.8m	50位以内
10	夫婦カヤ(大原) 500年以上	6.4m	40位以内
11	真湯のケヤキ(厳美) 約1500年	6.3m	500位以内
12	御袋神社の杉(室根) 不明	5.94m	杉でこのレベルは多数
13	藤沢のモミ(藤沢) 400年～500年	5.4m	100位以内
14	種蒔桜(エドヒガン)(奥玉) 約400年	5.1m	100位以内
15	田ノ萱のイチョウ(田河津) 300年以上	5.1m	イチョウでこのレベルは多数
16	天神角のサイカチ(永井) 400年以上	約5m	20位以内
17	大門神社の杉(金沢) 1200年以上	4.8m	杉でこのレベルは多数

実は存在自体が貴重な木たち

右ページのランキングとは関係なく、木の特性を加味した上で「すごい！」とされる木をピックアップしてご紹介します！
※下記文献等を元に、実際に当センタースタッフが現地調査に行きました！掲載している写真は2019年現在の木の姿です。
参考文献：（社）岩手県緑化推進委員会（2001）『岩手の巨樹・名木～後世に引き継ぎたいみどりの遺産～』

PICK UP 1 アカマツ（川崎）

川崎町薄衣字柏木

樹齢約600年とされ、典型的な傘型をしたこの松は、「薄衣の笠マツ」として県の天然記念物に指定されています。アカマツは長寿で知られますが、近年は松くい虫等の被害により、長寿だった松が枯れてしまったという事例が少なからずあるようです。薄衣の笠マツも3本の巨木があったところ、最も太かった木はすでに伐採されてしまっています。伊達政宗がその美しさに見惚れたという言い伝えも残っている貴重な松です。

PICK UP 2 シダレグリ（日形）

花泉町日形字上通

シダレグリは青森県から岡山県に及ぶ中でわずか22か所でしか生存が確認されておらず（平成16年当時）、県内では5か所あるうち、日形のシダレグリが老木かつ最大級であることから平成16年に花泉町の天然記念物として指定されました。その昔この地に宿泊した法師がお礼として置いて行った実を植えたところ、シダレグリになったという話があるそうですが、残念ながら、この木になった実からは芽が出ないのだそうです。

PICK UP 3 モミ（藤沢）

藤沢町藤沢

岩手県はモミの木の天然分布の北限地帯であり、その中でもこのモミの木は指折りの老大木といわれています。藤沢病院裏側の森の中にある愛宕神社への参道を進んでいくとあちこちにモミの大木が見えてきますが、その中でもひときわ大きなモミの木を発見。地上1.5m程のところから幹が4本に分かれており、幼時に寒害か雪害を受けた後にも成長し続けた結果ではないかという説もあるようです。目通り周は5.4mでした。

PICK UP 4 シナノキ（室根）

室根町津谷川大森

岩手では方言で「もだ」等と呼ばれているシナノキ。シナノキ自体は県内にも広く分布していますが、巨樹化しているものは少ないそうで、この津谷川のシナノキは県内3位ではないかともいわれています。「八人ばらし」と呼ばれる巨石を目指して大森山を登り、そこからさらに尾根を目指して登った先に大きく樹冠を広げたこの木が待っています。樹齢約400年とされ、根元部には大きな石（岩）を抱え込んでいました。

PICK UP 5 アカガシ（川崎）

川崎町薄衣字矢作館

目通り周87cmと巨樹とはいえないこの木。ただ、アカガシの天然分布の北限は宮城県中部までとされており、主な分布域も東海以西・四国・九州であることから、このアカガシは最北の可能性があるという面で貴重な存在なのです。かつて県会議長や川崎村の村長を務めた故・髙橋國治さん宅（現在の所有者はお孫さん）の敷地内にあるこの木。すぐ横には若いアカガシの木もあり、自然に増えていっている様子が見られました。

PICK UP 6 アズマヒガン（川崎）

川崎町門崎

目通り周6.8mと県内最大級の（3位以内）アズマヒガン（＝エドヒガン）。根本には「おふねさま」という神様の祠が3つあり、紙で作った舟を中に入れ「病気など悪いことが外にいきますように」と祈りを込めて参拝していたこともあるそうです。幹中央に見える色の明るい部分はケヤキの木で、その成長でアズマヒガンが弱ってきたため、20年程前にケヤキの根本は切られています。樹齢は450年程とみられています。

PICK UP 7 ガンボクエゴノキ（藤沢）

藤沢町大籠字沢内

エゴノキの突然変異（節ごとに折れ曲がる枝と八重咲の花が通常のエゴノキにはない特徴）によって発生したもので、大学の研究により新変種と認められた世界的にも珍しい木。昭和51年に県指定記念物に指定されています。初代の木は現所有者宅近くの森林で発見され、自宅庭に移植されましたが、昭和47年に枯れてしまいました。現有木は初代のヒコバエ（切り株から出た芽）で宅地内に設けられたフェンスの中で管理されています（個人宅内のため見学は所有者に要相談）。

‘樹守’のみなさん ～これからもよろしくお願いします！～

千葉満さん（大原・夫婦カヤ/5・6月号掲載）
木の周りの草刈りをする程度で特別なことはしていませんが、今後も見守っていきます。灰汁抜きをしたカヤの実は「産直山ちゃん」で販売していますよ。

三浦恭平さん（神中のカツラ/5・6月号掲載）
木の周辺の三浦家の皆さん（≒神中班）と共に木を見守ってきました。少しでも長くこの場所に木があることを願っています。

idea
発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415 ホームページ:https://www.center-i.org/ メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

おしらせ

法人設立 「NPO法人大又溜池保全会」が設立されました

今年5月に、「NPO法人大又溜池保全会」さんが設立されました。

同法人は、大又溜池の受益地域及びその周辺地域の方に対して、農業・農村が持つ国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能の維持を図るための諸事業を行い、大切な農村環境と農業生産資源の保全に資することを目的とします。

代表:小岩昭夫さん
事務所:一関市花泉町花泉字大又南沢28-21
問合:0191-82-5145
（副理事長　鹿野徳雄さん）

講座 月曜からNPO ～もしもあなたがNPO法人をつくったら～

NPO法人を例に、実際の提出書類等を作成しながら団体設立に係るノウハウを学ぶ計4回の連続講座です。全4回の講座で学んだ後は、秋に「NPO参観日」として市内で活動する実際の団体（NPO法人・一般社団法人）を訪問し、設立後のイメージにもつなげます。

日時:2019年7月8日、7月22日、8月19日、9月9日　※各回月曜19時～20時30分開催
場所:なのはなプラザ　4階会議室
参加料:2，000円（全4回分）
対象:団体設立を検討している方など
申込締切:7月1日（月）
主催:いちのせき市民活動センター
問合・申込:0191-26-6400

講座 自治会長サミット vol.8

「協働のまちづくり」が目指す姿や進め方等を学び、自治会長の役割やあり方を考えていきます。

「一関市の協働の背景や地域協働体と自治会との関わり」をテーマに講演を行い、後半は参加者の皆さんで情報交換を行います。

日時:2019年7月18日（木）13時30分～16時30分
場所:川崎市民センター
対象:市内自治会長または準ずる役職員の方
参加料:無料
主催:いちのせき市民活動センター
問合・申込:0191-26-6400

募集 「イチコレ」参加者募集

一関市民を中心に、老若男女、誰もがランウェイを歩くことができるいちのせき市民モデルコレクション「イチコレ」。着る衣装は、自前でも所属団体の衣装でもかまいません。「私のオリジナルの衣装を着てほしい！」という衣装提供のみのご参加も受け付けています。
※イチコレは「いちのせき市民フェスタ19」内の企画の1つです。

募集締切:2019年7月24日（水）
開催日時:8月25日（日）11時～12時
開催場所:花と泉の公園 ベゴニア館
参加料:無料
申込方法:右記QRコードから
主催:いちのせき市民活動センター
問合:0191-26-6400

講座 まちづくりコーディネーター養成講座

「まちづくり」とは何なのか、その考え方に触れつつ、まちづくりを担う人が知っておきたい項目（①地域福祉概論、②話し合いの仕方、③公共交通、④事業の考え方、⑤事務局のおしごと）について、全5回の講座を行います。

日時:①2019年7月27日、②9月7日、③9月28日、④10月26日、⑤11月9日
※各回土曜9時30分～開催
場所:なのはなプラザ 4階会議室
参加料:2，000円（全5回分）
申込締切:7月20日（土）
主催:いちのせき市民活動センター
問合・申込:0191-26-6400

募集 2019どろんこバレーin 羽根折沢

どろどろの田んぼでのバレー大会を開催します！「どろんこ」になれる、遊び心と健康に自信のある方（性別年齢不問）を募集しています。

日時:2019年7月28日（日）正午～
場所:大東町摺沢字下羽根折沢地内（羽根折沢地区集会施設「水晶館」隣り）
定員:12チーム（1チーム6名）
参加料:1チーム　6，000円
※「表彰式兼懇親会」の参加料含み
申込締切:7月12日（金）
主催:大東町摺沢「羽根折沢自治会」
問合:090-7520-6292
（事務局　佐藤さん）

まちの写真展 スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「長寿の銘泉」

大東町大原地区の上内野集落にある「長寿の銘泉」です。上内野集落は町からだいぶ離れた山奥にあります。写真の場所は、砂鉄川本流の上流で、長寿の銘泉から道路を挟んだ反対側には「滑岩（なめり）渓流」の看板も設置されていました。

Q&A みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

チラシをつくる時のポイントはありますか？

ポイントの1つとして「チラシがパンフレットスタンドに入った状態を意識する」というのがあります。チラシを3分割した時に、1番上にタイトル・日時・場所などの主要な情報を掲載すれば、スタンドに入れた状態でも見え、手にとらなくても情報が伝わりやすくなります。

1番上にタイトル等をもってこられない場合には、キャッチコピーを持ってくるなど、「目に留まるもの」を配置しましょう。